

6. まちづくりの動向

公共交通政策の実施にあたっては、今後のまちづくり政策との連携が求められる。

そのため、現在の生活利便施設（行政・商業・医療施設等）の立地状況および、今後のまちづくりの動向について整理する。

6.1. 生活利便施設の立地状況

JR 海老津駅および町役場周辺に生活利便施設が集中して立地しており、拠点を形成している。

また、これらの地区以外に立地する生活利便施設も JR 海老津駅、路線バス、コミュニティバスの沿線に立地しており、現在の公共交通網によってアクセスが確保されている。

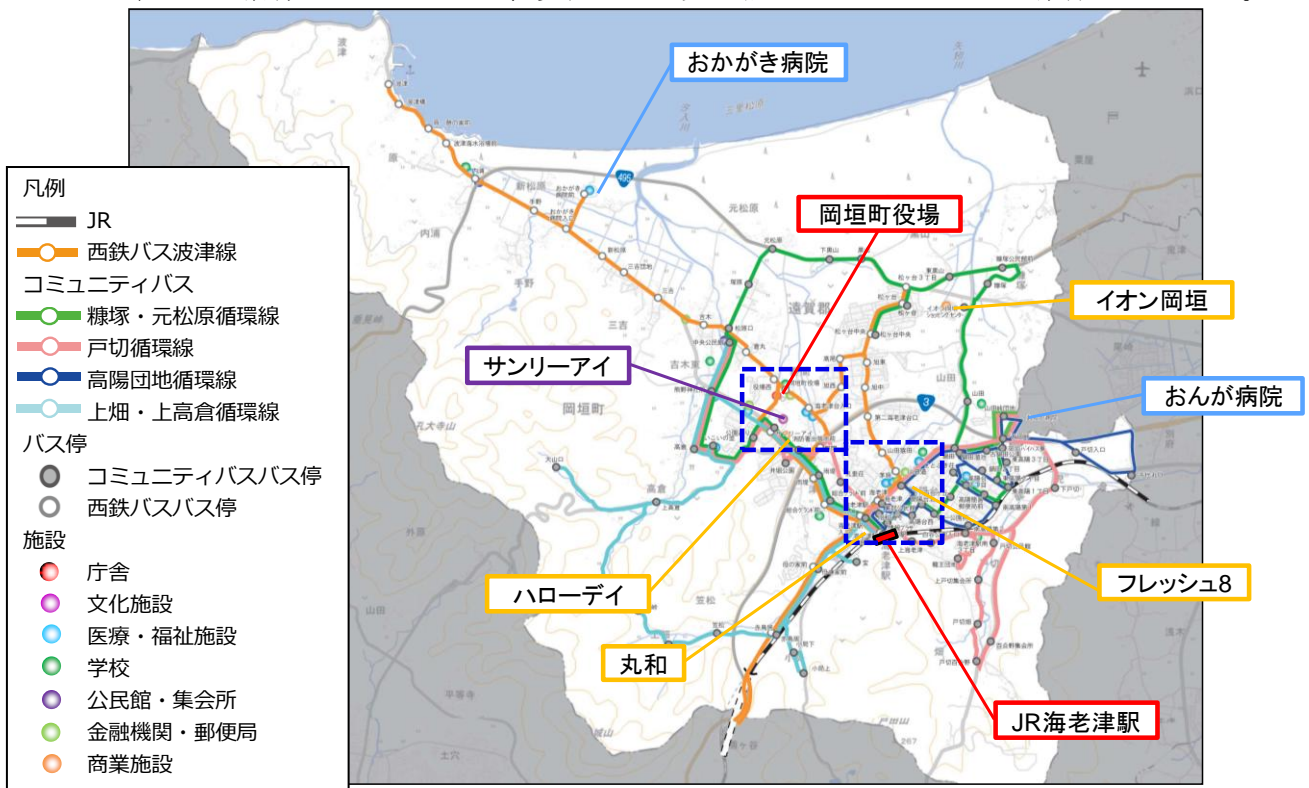


図 6-1 施設の立地状況

出典：国土数値情報、大型小売店総覧

6.2. 上位・関連計画におけるまちづくり・公共交通政策の方針

上位・関連計画として「岡垣町第5次総合計画（後期基本計画）」および「岡垣町まち・ひと・しごと創生総合戦略」「岡垣町高齢者福祉計画【第7期】」「岡垣町第2次環境ビジョン」「岡垣町都市計画マスタープラン」では、町内の都市機能拠点や都市軸の設定、公共交通政策の方針について記載されており、これらの計画との整合を図る必要がある。

各計画における記載内容を以下の表に抜粋して記載する。

表 6-1 まちづくり政策および公共交通政策に関する記載内容（1/3）

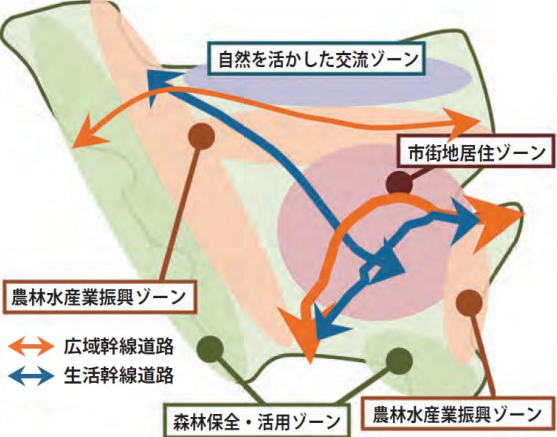
計画	内容
岡垣町第5次総合計画 第1部 第1章 第1,2,4項	<p>1.まちづくりの基本理念 住みたい・住み続けたい・みんなが輝く元気なまち 岡垣 住民と行政がともに連携し、岡垣町に住み続けたい、岡垣町に住みたい、そして岡垣町に訪れたいと感じられるまちづくりを進めることにより、定住人口・交流人口の増加と地域に愛着と誇りを持つ人材活力の維持・増加を図ります。</p> <hr/> <p>2.まちの将来像 安全安心：みんなが安全で安心して暮らせるまち ・災害に強く、道路や交通手段、情報の充実など安全で快適に生活できる環境が整ったまちをめざします。 ・健康づくりや福祉活動のネットワークの充実などにより、福祉・健康面で子どもから高齢者までみんなが健やかで安心して生活できるまちをめざします。 心の豊かさ：地域を愛し、心豊かな人が育つまち ・郷土の歴史文化を理解し誇りを持ち、これまでに培われた人の絆を大事に、家庭・地域・学校など住民が一体となり、互いにふれあい、学びあいながら、豊かな心と個性あふれる人材を育てるまちをめざします。</p> <hr/> <p>4.将来のまちの構造 4つのゾーンを町の構造をなす主要な要素として位置付け、これらが幹線道路によるネットワークで結ばれることで便利さとうるおいのある快適な町をついていきます。</p> 

表 6-2 まちづくり政策および公共交通政策に関する記載内容 (2/3)

計画	内容
岡垣町第 5 次総合計画 後期基本計画 第 2 部 第 3 章 3-3 項	施策の展開方針 <u>(1) 生活交通を確保します</u> ○利用しやすい持続した公共交通網を整備するため、交通体系のあり方を検討し、JR や西鉄バスなどの利用促進と運行継続を含めた公共交通環境の整備を行います。 ○住民の利用動向・利用意向にあわせ、コミュニティバスの運行を継続するとともに、新たな生活交通の確保に向けた対策を検討します。
岡垣町まち・ひと・しごと創生総合戦略 IV-2. 戦略施策 (IV) 住民のまちへの愛着を高め、安心な暮らしをつくる 2 都市機能の利便性を高める 基本方針 2 公共交通等の利便性を確保する	■ 基本方針 2 公共交通等の利便性を確保する ○JR 海老津駅の利便性を高めるとともに、高齢社会に対応した暮らしの利便性を高めるために必要な生活交通手段の確保を検討します。 【目的・成果】 北九州市、福岡市への通勤・通学圏としての利便性を高めるとともに、町内の生活交通の充実により、高齢者等の交通弱者の利便性を確保します。 【事業内容】 ■ JR 海老津駅の利便性の確保 快速電車の全時間帯での停車などによる北九州市、福岡市への通勤・通学圏としての利便性を高めるため、駅の利用促進対策を検討します。 ■ 路線バス、コミュニティバスなどの生活交通の運行見直し 町内を運行する路線バス、コミュニティバスなどの生活交通手段について、住民ニーズにあわせた運行方法の見直しを行います。 ■ 新たな生活交通手段の検討 住民の生活交通手段の確保に向け、交通の便の悪い地域を中心に新たな生活交通手段の検討を行います。
岡垣町高齢者福祉計画【第 7 期】 第 6 章 2. (2) 基本目標 3 : 高齢者の暮らしを支える福祉環境を整える【地域支援事業の推進】	⑤ 高齢者の住まいと安心して暮らせる環境整備 ○高齢者が安心して生活できる環境整備として、高齢者や障害者等の利用に配慮した公共施設のバリアフリー化、路線バスの低床化や道路・歩道の段差解消等の道路交通環境のバリアフリー化を進めます。 ○移動手段をもたない交通弱者である高齢者の外出支援のため、既存の民間路線バスとコミュニティバスによる公共交通手段を確保します。 ○増加する高齢運転者による交通事故の発生を抑制するため、代替となる交通手段の確保支援とあわせ、高齢者の自動車運転免許証の自主返納を促進します。

表 6-3 まちづくり政策および公共交通政策に関する記載内容 (3/3)

計画	内容
岡垣町第2次環境ビジョン 第4章 環境目標Ⅲ 行動方針①	<p>Ⅲ-①.地球温暖化を抑制するため、省エネルギー化を推進します</p> <p>取組みの方向性：自動車の使用燃料の削減に努めます。</p> <p>自家用車の利用を抑制する「ノーマイカー運動」、やさしい運転を心掛け実践する「エコドライブ運動」を促進します。</p>
岡垣町都市計画 マスタープラン 第3章 3-3項	<p>(2) 都市機能拠点</p> <p>① 都市核</p> <p>福岡県都市計画区域マスタープランで公共サービス拠点として位置付けられている地区を、都市機能が集積される地区（役場付近）として都市核に設定します。</p> <p>② 商業拠点</p> <p>福岡県都市計画区域マスタープランで中心拠点として位置付けられている駅周辺地区を、商業拠点に設定します。</p> <p>③ 交通拠点</p> <p>広域的な公共交通機関（JR鹿児島本線）により、本町と他市町を結ぶJR海老津駅周辺を設定します。今後とも利用者のニーズに合った整備と改善を促進していくとともに、岡垣町の玄関口として情報プラザ人の駅を通じて情報発信等を進めていきます。また、コミュニティーの場として憩いとやすらぎを与えるスペースなども確保していくものとします。</p> <hr/> <p>(3) 都市軸</p> <p>① 広域生活・流通軸</p> <p>九州の2政令指定都市（北九州市、福岡市）と本町を連結する国道3号を、広域的な都市形成に関わる軸として広域生活・流通軸と設定します。</p> <p>② 広域振興軸</p> <p>近隣の市町との振興並びに町内における交流拠点や観光拠点・レクリエーション拠点、水産業振興拠点とを結ぶ国道495号を広域振興軸と設定します。</p> <p>③ 広域生活軸</p> <p>広域圏と町内との玄関口であるJR海老津駅を有するJR鹿児島本線については、都市の活力を増進させ、都市生活（主に通勤・通学等）をささえる軸として、広域生活軸と設定します。</p>

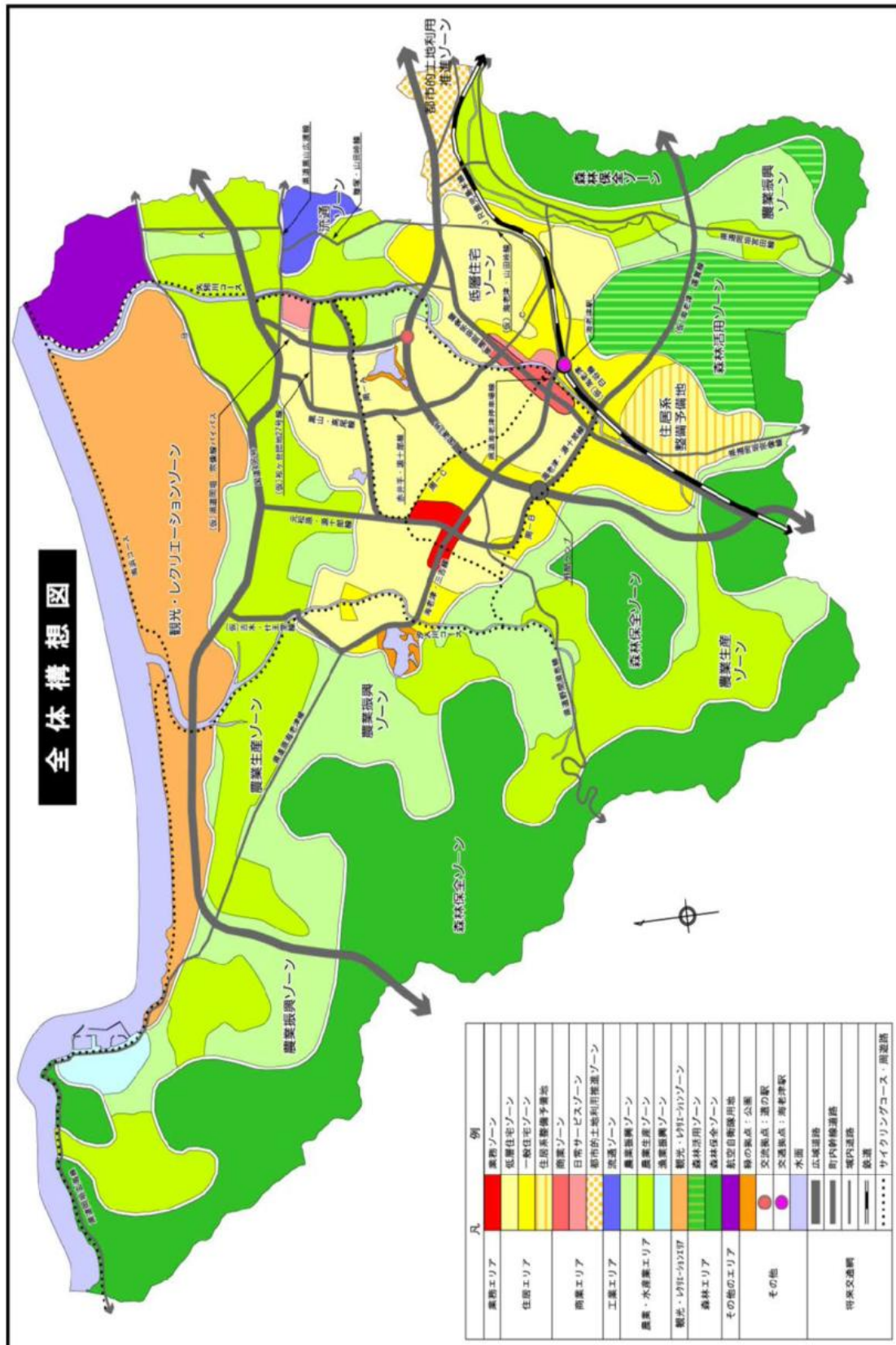


図 6-2 都市計画マスタープランにおける岡垣町の全体構想

出典：岡垣町都市計画マスタープラン

6.3. 今後の整備予定

都市計画道路の整備やJR海老津駅南側駅前広場の整備が計画されており、新たな運行路線の設定が可能となる。

また、岡垣町第5次総合計画や岡垣町都市計画マスタープランにおいて、民間活力による優良な住宅開発と企業等誘致を行う地区として位置付けられた駅南側開発地域の影響により、住民の移動先が変化していくことも想定される。

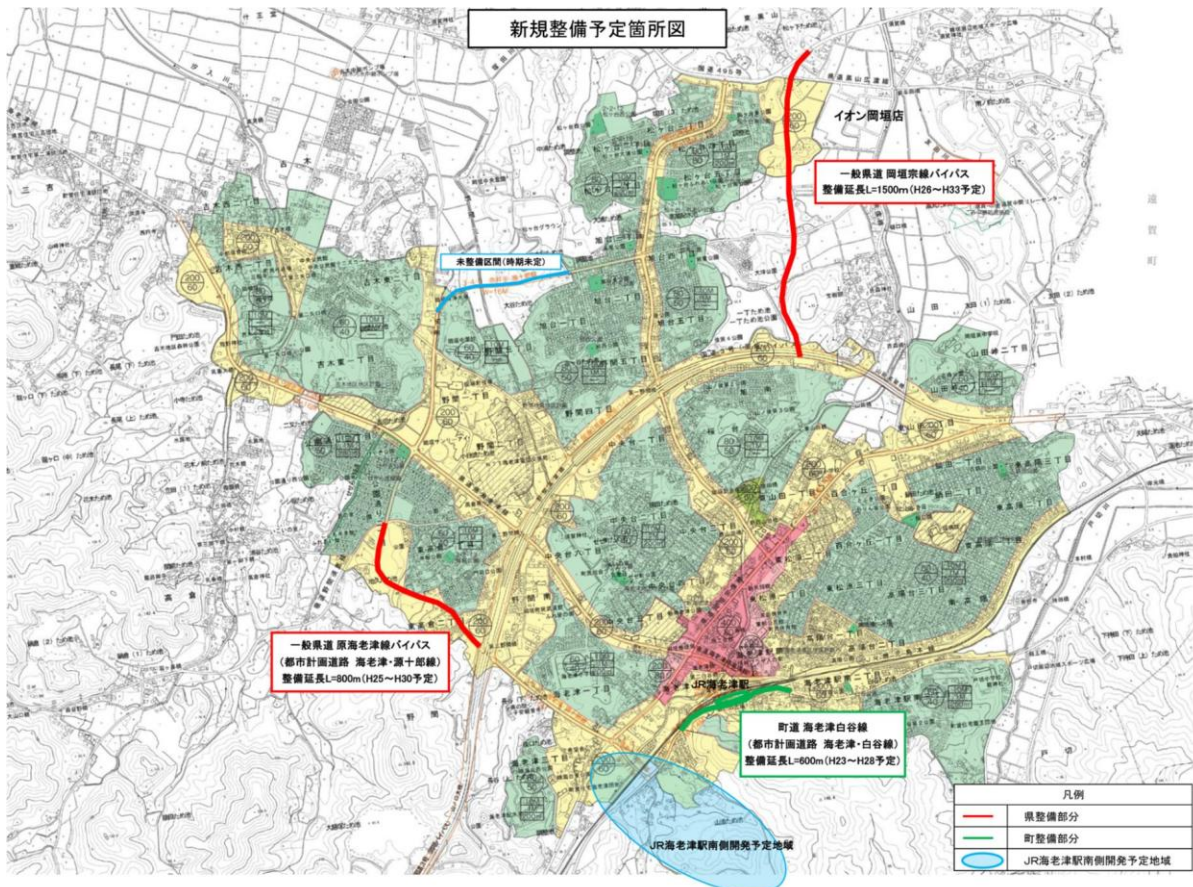


図 6-3 都市開発および道路の整備予定箇所

出典：岡垣町資料